

## 基本目標1:出産・子育ての希望をかなえる

## 前回提示

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は、子育ての環境づくりに取り組んできました。合計特殊出生率は、合併以降緩やかな上昇傾向にあり、一定の成果があがっています。しかし、妊娠・出産期の子育て家庭に関連する支援サービスが十分に周知されているとは言えないという声もあります。

今後は、妊娠・出産・子育てに対する支援を切れ目なく実施し、自然増に対する取組を強化することが課題です。また、支援を実施するためには、子育て支援サービス情報の十分な周知も必要となります。

## 【基本的方向】

「いつも子どもが まんなか」の理念の下、子どもを安心して産み育てる環境づくりに取り組み、支援サービスの情報発信を行います(個別目標1)。また、妊娠・出産・子育て支援を実現するため、地域全体で子育てを支える環境づくりに取り組みます(個別目標2)。これらの取組により、子育て世代が希望する子どもの数と現実の子どもの数が一致するよう努めます。

KPI:平成23年度 予定子ども数/理想子ども数=2.37/2.81=0.84(大分県実績値)

↓  
平成31年度 予定子ども数/理想子ども数=1

※予定子ども数と理想子ども数

- 国立社会保障・人口問題研究所の出生動向基本調査における子どもの数についての考え方。
- ・予定子ども数:実際に持つつもりの子どもの数をいう。
- ・理想子ども数:夫婦にとっての理想的な子どもの数をいう。

## 個別目標1:子どもを安心して産み育てる環境づくり

子どもを安心して産み育てる環境づくりを促進させるため、3つの施策(①妊娠・出産支援の充実②子育て支援サービスの充実③子育てで仕事しやすい環境づくり)に取り組めます。これらの施策により、平成31年度に合計特殊出生率1.80を目指します。

## (施策)

- ・妊娠・出産支援の充実に取り組みます。
- ・子育て支援サービスの充実に取り組みます。
- ・子育てで仕事しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・妊娠・出産・子育ての施策に関する情報発信を充実させます。

## (取組例)

- ・若者の出会い支援
- ・不妊治療費用の助成
- ・病児病後児保育の充実
- ・クーポンによる支援サービスの周知
- ・情報提供の在り方の見直し

KPI:平成24年度 合計特殊出生率 1.60 → 平成31年度 合計特殊出生率 1.80

## 基本目標1:出産・子育ての希望をかなえる

## 未定稿

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は、子育ての環境づくりに取り組んできました。合計特殊出生率は、合併以降緩やかな上昇傾向にあり、一定の成果があがっています。しかし、妊娠・出産期の子育て家庭に関連する支援サービスが十分に周知されているとは言えないという声もあります。

今後は、妊娠・出産・子育てに対する支援を切れ目なく実施し、自然増に対する取組を強化することが課題です。また、支援を実施するためには、子育て支援サービス情報の十分な周知も必要となります。

## 【基本的方向】

「いつも子どもが まんなか」の理念の下、子どもを安心して産み育てる環境づくりに取り組み、支援サービスの情報発信を行います(個別目標1)。また、妊娠・出産・子育て支援を実現するため、地域全体で子育てを支える環境づくりに取り組みます(個別目標2)。これらの取組により、子育て世代が希望する子どもの数と現実の子どもの数が一致するよう努めます。

KPI:平成23年度 予定子ども数/理想子ども数=2.37/2.81=0.84(大分県実績値)

↓  
平成31年度 予定子ども数/理想子ども数=1

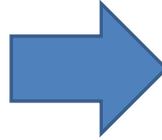
※予定子ども数と理想子ども数

- 国立社会保障・人口問題研究所の出生動向基本調査における子どもの数についての考え方。
- ・予定子ども数:実際に持つつもりの子どもの数をいう。
- ・理想子ども数:夫婦にとっての理想的な子どもの数をいう。

## 個別目標1:子どもを安心して産み育てる環境づくり

子どもを安心して産み育てる環境づくりを促進させるため、施策①子どもを生み育てたいという希望をかなえるための支援に取り組めます。また、施策②出産から子育て・仕事の両立まで続く、切れ目ない支援に取り組めます。

(施策)	(取組)	(KPI)
①未婚者を含めた子どもを生み育てたいという希望に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者による出会いの場づくりを通じた若者の交流の促進</li> <li>・イベント等の情報発信の強化</li> <li>・不妊治療費用の助成</li> </ul>	施策を通じた結婚件数 平成26年度0組 ↓ 平成31年度までに累計3組
②出産から子育て・仕事の両立まで続く、切れ目ない支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児病後児保育の充実</li> <li>・クーポンによる支援サービスの周知</li> <li>・情報提供の在り方の見直し</li> </ul>	子育て支援サービスを知っていると 応えた人の割合 平成26年度54.5%(県実績) ↓ 平成31年度100%



## 基本目標1: 出産・子育ての希望をかなえる

## 前回提示

## 基本目標1: 出産・子育ての希望をかなえる

## 未定稿

## 個別目標2: 地域全体で子育てを支える環境づくり

地域全体で子育てを支える環境づくりを促進させるため、2つの施策(①豊かな教育環境の整備②地域ぐるみの子育て体制の充実)に取り組みます。これらの施策により、地域の教育に携わる人数を増加させます。

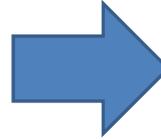
## (施策)

- ・豊かな教育環境の整備を行います。
- ・地域ぐるみの子育て体制の充実に取り組みます。

## (取組例)

- ・障がいをもつ児童・生徒への教育支援
- ・学校における防災教育の推進
- ・スクール・メンタルケアの推進
- ・学校と地域における食育の推進

KPI: 地域の教育に携わる人数(算定中)



## 個別目標2: 地域全体で子育てを支える環境づくり

地域全体で子育てを支える環境づくりを促進させるため、施策①豊かな教育環境の整備と施策②地域ぐるみの子育て体制の充実に取り組みます。

(施策)	(取組)	(KPI)
①豊かな教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいがある児童生徒への教育支援</li> <li>・学校における防災教育の推進</li> <li>・スクール・メンタルケアの推進</li> </ul>	不登校児童生徒の割合 平成27年度0.45%(小学校)2.80% (中学校) ↓ 平成31年度0.37%(小学校)2.60% (中学校)
②地域ぐるみの子育て体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と協働する表現教育の推進</li> <li>・地域と教育現場が協働した食育の推進</li> <li>・総合的な学習の時間を核とした「ふるさと創生」の取組</li> </ul>	地域の教育に携わる人数 平成26年度4,226人 ↓ 平成31年度5,000人

## 基本目標2:佐伯市への人の流れを促す

## 前回提示

## 基本目標2:佐伯市への人の流れを促す

## 未定稿

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は、持家取得に対する助成制度の実施や空き家バンクの運営を行ってきましたが、移住希望者の多様なニーズに対応できていません。課題としては、移住希望者のニーズに対応した助成メニューの構築や空き家バンク登録物件の充実が挙げられます。また、地域の担い手確保として地域おこし協力隊制度を導入しましたが、制度の目的である定住には結びついていません。活用の在り方が課題です。さらに外からの人の流れに関連した取組として、地域づくり人材育成のための塾を開催してきました。卒業後、実際に地域活性化に取り組むUJターン者も出てきました。しかし、年齢層に偏りが見られるのが現状です。若い世代の人口流出が続いており、佐伯市への人の流れを促すことが課題となっています。

## 【基本的方向】

佐伯市への人の流れを促すためには、受入体制の整備と、佐伯市に愛着を持つ人を市内外に増やす必要があります。移住者の多様なニーズに対応するため、移住支援メニューの構築と空き家バンク登録物件の充実に取り組みます。移住者が佐伯人となり、地域の担い手となるよう支援を行うことで、佐伯市への回帰を促します(個別目標1)。また、市外の人材との交流を通じて、佐伯市に愛着をもつ人を増やすよう取り組みます(個別目標2)。これらの取組により、人口ビジョンで仮定した「施策による移住者数 年間60人」を達成するよう努めます。

KPI: 制度を活用した移住者数 平成26年度 15人 → 平成31年度まで累計300人

※佐伯人(さいきびと)

佐伯市の魅力ある資源(歴史、産物、食文化、自然環境など)を知り、それに誇りを持つとともに、市内外に情報発信し、その活用や保全に積極的に取り組む人。佐伯の地域づくり・活性化を担う人財を指します。

## 個別目標1:佐伯市への回帰を促す

佐伯市への回帰を促すため、2つの施策(①定住促進の強化②次世代の佐伯人の育成)に取り組みます。これらの施策により、年間60人の移住を目指します。

(施策)	(取組例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>定住促進に向けた取組を強化します。</li> <li>移住に関する情報を充実させます。</li> <li>次世代の佐伯人を育成します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住助成メニューの充実</li> <li>専門家への空き家バンク運営の委託</li> <li>移住希望者に向けたWeb情報の発信強化</li> <li>地元の仕事に関するキャリア教育の促進</li> <li>UJターン就職説明会の開催</li> <li>郷土の味を学習する機会の提供</li> </ul>

KPI: 制度を活用した移住者数 平成26年度 15人 → 平成31年度まで累計300人

## 個別目標2:交流から佐伯市のファンを生み出す

交流から佐伯市のファンを生み出すため、3つの施策(①外部人材との地域づくり支援②情報発信強化③地域の自然・特性を活かした体験の提供支援)に取り組みます。これらの施策により、外部人材との交流を促します。

(施策)	(取組例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>外部人材との地域づくりを支援します。</li> <li>市外への情報発信を強化します。</li> <li>地域の自然・特性を活かした体験を提供する取組を支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携大学と地域との交流</li> <li>地域おこし協力隊制度の活用</li> <li>ふるさと納税の促進</li> <li>体験型交流の促進</li> </ul>

KPI: 外部人材と地域との交流事業数(算定中)  
佐伯市ふるさと応援寄附金(ふるさと納税)平成26年度 6,521千円 → 平成31年度まで累計2億円

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は、持家取得に対する助成制度の実施や空き家バンクの運営を行ってきましたが、移住希望者の多様なニーズに対応できていません。課題としては、移住希望者のニーズに対応した助成メニューの構築や空き家バンク登録物件の充実が挙げられます。また、地域の担い手確保として地域おこし協力隊制度を導入しましたが、制度の目的である定住には結びついていません。活用の在り方が課題です。さらに外からの人の流れに関連した取組として、地域づくり人材育成のための塾を開催してきました。卒業後、実際に地域活性化に取り組むUJターン者も出てきました。しかし、年齢層に偏りが見られるのが現状です。若い世代の人口流出が続いており、佐伯市への人の流れを促すことが課題となっています。

## 【基本的方向】

佐伯市への人の流れを促すためには、受入体制の整備と、佐伯市に愛着を持つ人を市内外に増やす必要があります。移住者の多様なニーズに対応するため、移住支援メニューの構築と空き家バンク登録物件の充実に取り組みます。そして、Uターンを望む若い世代とシニア世代をメインターゲットとした情報発信を行い、佐伯市への回帰を促します(個別目標1)。また、地域のひととのふれあいを通じて、佐伯市に愛着をもつ人を増やすよう取り組みます(個別目標2)。これらの取組により、人口ビジョンで仮定した「施策による移住者数 年間60人」を達成するよう努めます。

KPI: 施策による移住者数 平成26年度 15人 → 平成31年度まで累計300人

※佐伯人(さいきびと)

佐伯市の魅力ある資源(歴史、産物、食文化、自然環境など)を知り、それに誇りを持つとともに、市内外に情報発信し、その活用や保全に積極的に取り組む人。佐伯の地域づくり・活性化を担う人財を指します。

## 個別目標1:佐伯市への回帰を促す

佐伯市への回帰を促すため、施策①移住の土台となる取組を強化します。そして、施策②佐伯人の回帰の希望をかなえるための支援を行います。

(施策)	(取組)	(KPI)
①移住の土台となる取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家バンク登録物件の充実</li> <li>移住費用に対する助成の拡充</li> <li>移住希望者に向けたWeb情報発信の強化</li> </ul>	空き家バンク登録件数 平成27年度2件(H27.10.16現在) ↓ 平成31年度30件
②佐伯人の回帰希望の実現支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い世代をメインターゲットとしたUJターン就職説明会の開催</li> <li>地元の仕事に関するキャリア教育の促進</li> <li>郷土の味を学習する機会の提供</li> <li>郷土会を通じたシニア世代への情報発信</li> </ul>	(KPI) 施策による移住者数 平成26年度15人 ↓ 平成31年度まで累計300人

## 個別目標2:地域の人とのふれあいから佐伯市のファンを生み出す

市外の人と地域の人とのふれあいを通じ、佐伯市のファンを生み出すため、施策①認知度を高めて外部人材を呼び、外部人材を活用した地域づくりに取り組みます。

(施策)	(取組)	(KPI)
①外部人材の活用による地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知を高める外部への情報発信の強化</li> <li>大学連携による地域との交流</li> <li>地域おこし協力隊制度の活用</li> <li>体験型交流の促進</li> </ul>	外部人材を活用した交流事業数 平成26年度2事業 ↓ 平成31年度9事業

## 基本目標3:仕事を育て、仕事を創る

## 前回提示

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は商業と農林水産業に加え、戦後、造船を中心に製造業が栄えました。このうち、農林水産業は基盤整備を中心に、2次3次産業にはインフラ整備に加えソフト事業と金融支援を行ってきました。しかし、どの産業もおしなべて内外の経済情勢と、業界の構造的問題に翻弄され、停滞あるいは先細り感があります。このため、担い手不足が深刻です。

## 【基本的方向】

農林水産分野には、新たな技術の導入や斬新な経営の試みを支援し、就業希望者を受け入れる体制を整備します(個別目標1)。商工業の分野には、企業経営の成長を促す学習の機会を提供し、金融支援に加え、人材確保の場を提供します(個別目標2)。観光分野では、「味力全開!九州一・佐伯 ツーリズム重点戦略」の一層の推進を図ります(個別目標3)。これらの取組により、新規雇用・創業を創出します。

KPI: 施策による新規雇用者数 平成25年度 65人 → 平成31年度 (算定中)  
 施策による創業者数 (算定中)  
 農林水産業・商工業分野の制度資金融資額 (算定中)

## 個別目標1: 地域資源を有効活用した農林水産業の振興

地域資源を有効活用した農林水産業振興のため、3つの施策(①経営改善②農林水産業のPR③就業支援)に取り組みます。これらの施策により、新規就業者を増加させます。

(施策)	(取組例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術の導入や経営の合理化、協業化、異業種からの参入を支援します。</li> <li>・農林水産業を体験する環境づくりを支援します。</li> <li>・技術指導、住環境、農地の提供など、就業の条件整備を図ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術の開発・利用に対する助成(杉苗木生産補助など)</li> <li>・個人経営体の合理化、協業化、異業種参入への助成</li> <li>・農林水産団体が取り組む販売促進活動への助成</li> <li>・地元産品のまとまった消費に対する助成(住宅建築時の市産材利用など)</li> <li>・農林水産業体験学習を行う団体等への助成</li> <li>・新規就業希望者の相談窓口開設への支援</li> <li>・経営に関する学習の場の提供</li> </ul>

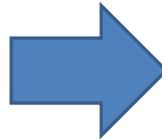
KPI: 施策による新規就業者数 (算定中)

## 個別目標2: 商工業の振興

商工業の振興のため、3つの施策(①マッチング支援②企業活動支援③学習支援)に取り組みます。これらの施策により、新規雇用・創業を創出します。

(施策)	(取組例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業の求人がかなうよう支援します。</li> <li>・設備投資等に際し、用地の確保と斡旋、金融支援等を行います。</li> <li>・起業・創業を支援します。</li> <li>・個人、団体の経営等に関する学習の場を提供します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業データベースの作成支援</li> <li>・高校生への地元企業の就職説明会開催</li> <li>・制度資金の利子補給</li> <li>・人材育成の初期投資に対する助成</li> <li>・共同製品開発に対する取組への助成</li> <li>・立地しようとする企業への助成</li> <li>・創業に関する店舗確保の支援</li> <li>・経営塾、人材育成塾の開催</li> </ul>

KPI: 施策による新規雇用者数 平成25年度 65人 → 平成31年度 (算定中)  
 施策による創業者数 (算定中)



## 基本目標3:仕事を育て、仕事を創る

## 未定稿

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は商業と農林水産業に加え、戦後、造船を中心に製造業が栄えました。このうち、農林水産業は基盤整備を中心に、2次3次産業にはインフラ整備に加えソフト事業と金融支援を行ってきました。しかし、どの産業もおしなべて内外の経済情勢と、業界の構造的問題に翻弄され、停滞あるいは先細り感があります。このため、担い手不足が深刻です。

## 【基本的方向】

農林水産分野には、新たな技術の導入や斬新な経営の試みを支援し、就業希望者を受け入れる体制を整備します(個別目標1)。商工業の分野には、意欲ある事業者・企業・創業希望者を支援するため、金融支援に加え、人材確保や経営に関する学習の場を提供します(個別目標2)。観光分野では、「味力全開!九州一・佐伯 ツーリズム重点戦略」の一層の推進を図ります(個別目標3)。これらの取組により、新規雇用・創業を創出します。

KPI: 施策による仕事の創出 平成25年度 67人 → 平成31年度 229人

## 個別目標1: 地域資源を有効活用した農林水産業の振興

地域資源を有効活用した農林水産業振興のため、施策①流通等の仕組づくりに対する支援に取り組みます。施策②次世代に産業をつなぐ取組を支援し、後継者の確保・育成を行います。

(施策)	(取組)	(KPI)
①流通等の仕組づくりに対する支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術の開発・利用に対する助成(杉苗木生産補助など)</li> <li>・個人経営体の合理化、協業化、異業種参入への助成</li> <li>・販売促進・消費拡大への支援(農林水産物の輸出促進支援、市産材利用促進など)</li> </ul>	農林水産物等の輸出货量前年度比30%増
②産業を次世代につなぐ取組・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業の条件整備(技術指導、住環境、農地の提供)</li> <li>・経営に関する学習の場の提供</li> <li>・人農地プランの推進</li> </ul>	施策による就業者数 平成26年度 ↓ 平成31年度までに累計75人

## 個別目標2: 商工業の振興

商工業の振興のため、施策①意欲ある事業者・企業に対する支援の拡充に取り組みます。また、施策②起業・創業を支援します。

(施策)	(取組)	(KPI)
①意欲ある事業者・企業に対する支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元企業のPR支援</li> <li>・人材育成の初期投資に対する助成</li> <li>・制度資金の利子補給</li> <li>・共同製品開発に対する取組への助成</li> <li>・立地・留地しようとする企業への助成</li> <li>・高校生への地元企業の就職説明会開催</li> </ul>	施策による新規雇用者数 新市発足以降、年平均21人 ↓ 平成31年度までに累計118人
②起業・創業支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営に関する学習の場の提供</li> <li>・創業費用に対する助成</li> <li>・創業に関する店舗確保の支援</li> </ul>	施策による創業者数 平成26年度3人 ↓ 平成31年度までに累計36人

## 基本目標3:仕事を育て、仕事を創る

## 前回提示

## 個別目標3:街・浦・里の魅力(味力)を活かした観光・ツーリズムの振興

街・浦・里の魅力(味力)を活かした観光・ツーリズム振興のため、3つの施策(①おもてなし意識の向上②食観光の推進③情報発信の充実)に取り組みます。これらの施策により、観光施設年間利用者数や道の駅等のレジ客数を増加させます。

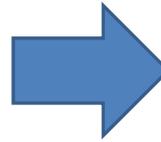
## (施策)

- ・個人・団体のおもてなし意識向上を支援します。
- ・佐伯の食観光に力を入れます。
- ・観光施設、関連施設の情報発信を充実させます。

## (取組例)

- ・お客様を迎える心構えの学習会の開催
- ・地元食材を用いたメニューの宣伝活動支援
- ・食に携わる個人・団体に対する学習の場の提供
- ・観光関連のホームページの充実

KPI:観光施設年間利用者数 平成25年度 232,467人 → 平成28年度 268,500人  
道の駅等レジ客数 平成25年度 822,740人 → 平成28年度 1,150,000人



## 基本目標3:仕事を育て、仕事を創る

## 未定稿

## 個別目標3:街・浦・里の魅力(味力)を活かした観光・ツーリズムの振興

街・浦・里の魅力(味力)を活かした観光・ツーリズム振興のため、施策①東九州道の管内開通によって「通過される地域」とならないよう、街・浦・里のポテンシャル発揮に取り組みます。

(施策)	(取組)	(KPI)
①通過される地域とならない街・浦・里のポテンシャルの発揮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光資源の磨き上げ・掘り起こし(観光商品の磨き上げ、食観光の推進など)</li> <li>・情報発信の充実(周遊観光ガイドブック、外国人旅行者受入体制の構築など)</li> <li>・観光案内サインの強化</li> <li>・周遊拠点施設等の強化(東九州道IC周辺、国道326号周辺など)</li> <li>・おもてなし強化(まちぐるみのおもてなし推進など)</li> </ul>	観光施設年間利用者数 平成25年度 232,467人 ↓ 平成28年度 268,500人 道の駅等レジ客数 平成25年度 822,740人 ↓ 平成28年度 1,150,000人

## 基本目標4: 街・浦・里が支え合い、高め合う

## 前回提示

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は、9つの市町村が合併して新市となりました。これまで、各地域の生活拠点を核に、ネットワークでつながるまちを目指してきました。文化や伝統などの地域資源を大切にし、地域の個性が光るまちづくりに取り組みました。しかし、人口減少と少子高齢化、過疎化は進行しています。そのため、各地域において空き家の増加、公的施設の老朽化、地域コミュニティの維持に関わる問題等が深刻化しています。これらを踏まえ、いかに持続可能なまちづくりを進めるかが課題です。

## 【基本的方向】

持続可能な暮らしを実現するため、人口減少・少子高齢化・過疎化を踏まえ、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組みます(個別目標1)。また、各地域の拠点を維持するため、地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進めます(個別目標2)。これらの取組により、佐伯市が将来性豊かなまちであるとする市民の割合を増加させます。

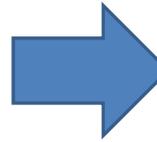
KPI: 将来性豊かなまちと考える市民の割合  
平成23年度16.6%(そう思う4.5%、少しそう思う12.1%の合計) → 平成31年度25.0%

## 個別目標1: 住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちをつくる

住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちをつくるため、5つの施策(①生活交通体系の構築②防災の強化③小規模集落対策④地域医療体制の整備⑤高齢者の生きがいづくり)に取り組みます。これらの施策により、ずっと佐伯市に住みたいと考える市民の割合を増加させます。

(施策)	(取組例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性の高い生活交通体系を構築します。</li> <li>・災害に強いまち(人)をつくります。</li> <li>・小規模集落対策を推進します。</li> <li>・地域医療体制の整備を図ります。</li> <li>・高齢者の生きがいづくりを支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通網形成計画の策定・推進</li> <li>・防災士の育成</li> <li>・買い物弱者に対する支援</li> <li>・診療所、福祉施設への指定管理制度の導入</li> <li>・さいきの茶の間・ふれあいサロンの運営</li> </ul>

KPI: ずっと佐伯市に住みたいと考える市民の割合  
平成23年度59.0%(当分は住みたい26.3%を除く) → 平成31年度80.0%



## 基本目標4: 街・浦・里が支え合い、高め合う

## 未定稿

## 【現状の取組と課題】

佐伯市は、9つの市町村が合併して新市となりました。これまで、各地域の生活拠点を核に、ネットワークでつながるまちを目指してきました。文化や伝統などの地域資源を大切にし、地域の個性が光るまちづくりに取り組みました。しかし、人口減少と少子高齢化、過疎化は進行しています。そのため、各地域において空き家の増加、公的施設の老朽化、地域コミュニティの維持に関わる問題等が深刻化しています。これらを踏まえ、いかに持続可能なまちづくりを進めるかが課題です。

## 【基本的方向】

持続可能な暮らしを実現するため、人口減少・少子高齢化・過疎化を踏まえ、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組みます(個別目標1)。また、各地域の拠点を維持するため、地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進めます(個別目標2)。これらの取組により、佐伯市が将来性豊かなまちであるとする市民の割合を増加させます。

KPI: 地域創生に取り組む団体の数 平成26年度 0団体 → 平成31年度 9団体

## 個別目標1: 住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちをつくる

住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちをつくるため、施策①人口減少に応じた生活機能の確保に取り組みます。

(施策)	(取組)	(KPI)
①人口減少に応じた地域の生活機能確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実情に応じた生活交通体系の見直し</li> <li>・買い物弱者支援などの過疎対策の推進</li> <li>・地元教育機関の定員確保を見据えた取組の構築</li> <li>・診療所、福祉施設への指定管理制度の導入</li> </ul>	ネットワーク化の取組件数 平成27年度2件 ↓ 平成31年度までに累計10件

## 基本目標4:街・浦・里が支え合い、高め合う

## 前回提示

## 基本目標4:街・浦・里が支え合い、高め合う

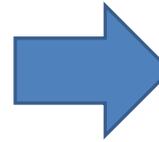
## 未定稿

## 個別目標2:地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進める

地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進めるため、4つの施策(①中心市街地の活性化②コミュニティづくりの推進③市民活動の支援④地域ストックの有効活用)に取り組みます。これらの施策により、地域コミュニティの維持に取り組む団体の創出につなげます。

(施策)	(取組例)
<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地の活性化を行います。</li> <li>各地域におけるコミュニティづくりを推進します。</li> <li>地域づくりに向けた市民活動を支援します。</li> <li>地域ストック(公的施設、空き家等)を有効活用します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり活動に取り組む団体等の研修支援</li> <li>地域づくりのリーダーの育成</li> <li>自治会等、地域づくり団体の支援</li> <li>地域おこし協力隊、地域支援員の設置</li> <li>遊休化した公的施設の利活用の支援</li> <li>専門家への空き家バンク運営の委託</li> </ul>

KPI: 地域コミュニティの維持に取り組む団体の数 平成26年度 0団体 → 平成31年度 9団体



## 個別目標2:地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進める

地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進めるため、4つの施策(①地域人材の育成②地域の個性の継承③中心市街地の活性化④地域ストックの有効活用)に取り組みます。

(施策)	(取組)	(KPI)
①地域を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域づくりのリーダーの育成</li> <li>高齢人材の有する知識・技術・知恵の継承</li> <li>地域おこし協力隊(再掲)、地域支援員の活用</li> <li>防災士の養成・育成</li> </ul>	佐伯人創造塾における「佐伯人」講師数 平成27年度1人 ↓ 平成31年度30人
②地域の個性の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の伝統文化の新たな継承(地域が連携した継承の取組など)</li> <li>地域の自然環境の継承(ユネスコエコパーク登録推進など)</li> <li>地域の誇りとなるイベントに対する支援</li> </ul>	地域創生に取り組む団体の数 平成26年度0団体 ↓ 平成31年度9団体
③中心市街地の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり活動に取り組む団体等の研修支援</li> <li>空き家空き店舗の活用実証実験</li> </ul>	空き店舗活用件数 平成26年度3件 ↓ 平成31年度までに累計13件
④地域ストック(公的施設、空き家等)の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家活用の推進</li> <li>遊休化した公的施設の利活用の支援</li> </ul>	空き家バンク登録物件のうち、活用件数 平成26年度1件 ↓ 平成31年度10件